

2018
BEST
FACULTY
MEMBER



University of Tsukuba

2018 BEST FACULTY MEMBER

人文社会系	津崎 良典	准教授	1
ビジネスサイエンス系	大塚 章男	教授	2
数理物質系	伊藤 良一	准教授	3
数理物質系	小島 隆彦	教授	4
数理物質系	長崎 幸夫	教授	5
数理物質系	初貝 安弘	教授	6
システム情報系	伊藤 誠	教授	7
システム情報系	遠藤 靖典	教授	8
システム情報系	PHUNG-DUC TUAN	准教授	9
生命環境系	Agostini Sylvain	助教	10
生命環境系	磯田 博子	教授	11
生命環境系	植田 宏昭	教授	12
人間系	井田 仁康	教授	13
人間系	宇野 彰	教授	14
人間系	園山 繁樹	教授	15
体育系	河合 季信	准教授	16
芸術系	山本 浩之	准教授	17
医学医療系	熊谷 嘉人	教授	18
医学医療系	千葉 滋	教授	19
医学医療系	松村 明	教授	20
医学医療系	丸島 愛樹	講師	21
図書館情報メディア系	上保 秀夫	准教授	22
計算科学研究センター	重田 育照	教授	23
生存メカニクス研究センター	澁谷 彰	教授	24

津崎 良典 准教授

所属 人文社会系
専門分野 フランス哲学



— 業績 —

フランス哲学における人間学的緒言説の生成と展開のメカニズムを解明する研究を行っている。2017年度に関連領域において単著1冊と論文2本を発表し、当該単著『デカルトの憂鬱：マイナスの感情を確実に乗り越える方法』（扶桑社）は、2018年2月、第66回日本エッセイスト・クラブ賞に推薦され、その後も各メディアにおいて書評や取材の対象となり、2019年中に韓国語訳が出版されることになっている。また、世界トップクラスのフランス語圏（フランコフォニー）研究者を大型科研費を取得のうえ本学に毎年招聘し、国際共同研究の推進にも尽力している。

略歴

仏国エコール・ノルマル・シューペリール講師、仏国ストラスブール大学助教、筑波大学人文社会系助教等を経て、2015年4月より現職。

大塚 章男 教授

所属 ビジネスサイエンス系

専門分野 民事法学
新領域法学



— 業績 —

国際企業法・会社法を専門とし、平成29年度にアメリカのロー・ジャーナルであるSouth Carolina Journal of International Law and Businessにコーポレート・ガバナンスに関する論文が掲載された。また、単著を2冊刊行し、そのうち『英文契約書の理論と実務』は、実務家としての経験と研究者としての研究とを融合し、的確な分析と検討が加えられている。さらに、積極的な国際的研究活動が評価され、Corporate Governance and Organizational Behavior Reviewの編集委員に選出されるなど実績を挙げている。

略歴

昭和61年弁護士登録、専門は国際取引・企業法務。博士（法学）。東海大学法科大学院教授等を経て、平成17年4月より現職。平成30年4月～現在、ビジネス科学研究科長。

伊藤 良一 准教授

所属 数理物質系

専門分野 物理化学
エネルギーデバイス



— 業績 —

多孔質、あるいは極小曲面を有するグラフェンに注目し、その特異な物性を積極的に活用した様々な応用展開を図り、平成27年度～平成30年度JST-さきがけなど大型の外部資金を獲得すると共に、著名な国際学術誌に数々の優れた論文を発表してきた。平成29年度には、文部科学大臣表彰若手科学者賞、筑波大学若手教員特別奨励賞、熊谷研究助成表彰等、数々の賞を受賞した。

略歴

マックスプランク高分子研究所博士研究員、東北大学原子分子材料科学高等研究機構准教授等を経て、平成28年11月より現職。

小島 隆彦 教授

所属 数理物質系

専門分野 錯体化学
生体関連化学
グリーン・環境化学
触媒化学



— 業績 —

酸化還元を中心とした錯体化学を専門とし、現在は環境・エネルギー問題の解決に向け人工光合成を目指した研究を行っている。特に、金属錯体におけるプロトン共役電子移動に関する研究が評価され、平成30年度錯体化学会学術賞を受賞した。また、王立化学会（英国）のFellowに選出されるなど、国際的にも高く評価されている。

略歴

東京大学工学部卒、東京大学大学院工学系研究科修了後、ミネソタ大学博士研究員、九州大学大学院理学研究院助手、大阪大学大学院工学研究科准教授等を経て、平成20年12月より現職。平成30年4月～現在、数理物質科学研究科化学専攻長。

長崎 幸夫 教授

所属 数理物質系

専門分野 生体医工学・生体材料学
高分子・繊維材料



— 業績 —

高分子合成、バイオナノ界面の設計によるバイオマテリアルの創成等を専門とする。「活性酸素を制御するバイオマテリアルの構築」（科研費基盤研究（S））等、当該分野において牽引的かつ顕著な研究業績を挙げており、2017年5月には高分子学会賞を受賞した。近年、自己組織化薬の創出を目指し、研究を継続している。日本DDS学会評議員・理事、日本酸化ストレス学会評議員・理事、日本バイオマテリアル学会評議員・理事、高分子学会関東支部長・理事、その他編集員等8件を務める。

略歴

東京理科大学基礎工学部助手、講師、助教授、教授を経て、平成16年10月より現職。

初貝 安弘 教授

所属 数理物質系

専門分野 数理物理・物性基礎
物性Ⅰ
物性Ⅱ



— 業績 —

2016年ノーベル物理学賞の対象となったトポロジカル相の物理に関し、先駆的研究により大きな成果を挙げ、高い評価を得ている。特に「バルクエッジ対応」は、トポロジカル相の物理の基本的な概念として世界的に広く使われ、その先駆性と重要性が高く評価されている。平成29年度には「トポロジカル相でのバルク・エッジ対応の多様性と普遍性：固体物理を越えて分野横断へ」（科研費基盤研究（S））等を獲得するなど、その研究を一層活発化している。

略歴

東京大学大学院工学系研究科講師、助教授を経て、平成19年4月より現職。平成30年4月～現在、数理物質科学研究科物理学専攻長。

伊藤 誠 教授

所属 システム情報系

専門分野 社会システム工学・
安全システム



— 業績 —

不確実性のもとでの人の意思決定を研究対象としている。内閣府が主導しているSIPの自動走行システム研究開発におけるHMIに関する受託研究に参加し、課題リーダーとして研究を推進した。学内外で共同研究を多数推進しつつ、大型の外部資金を複数獲得し、A. P. Sage Best Transaction Paper Award を受賞するなど、その研究は社会的に高く評価されている。

略歴

電気通信大学大学院情報システム学研究科助手、筑波大学システム情報工学研究科講師、准教授等を経て、平成25年12月より現職。

遠藤 靖典 教授

所属 システム情報系

専門分野 機械学習・データ解析
知能情報学
制御・システム工学



— 業績 —

産学協働によるレジリエンス研究と大学院教育の推進のための「レジリエンス研究教育推進コンソーシアム」を設立し、学内外で高く評価されている。このコンソーシアムは、レジリエンスに関する知の一大発信拠点として、リスク・レジリエンスの分野における世界の知と教育の中核を目指し、コンソーシアムの主導により、この分野で国際的に活躍できる研究者・高度専門職業人の育成を産学協働で行うという、これまで類のない取組みである。

略歴

早稲田大学理工学部助手、東海大学工学部講師、筑波大学システム情報系准教授等を経て、平成25年12月より現職。平成29年3月～現在、リスク工学専攻長。

PHUNG-DUC TUAN

准教授

所属 システム情報系

専門分野 応用確率過程
オペレーションズ・
リサーチ
数理工学



— 業績 —

応用確率論及び待ち行列理論を専門とし、不確実な要素を含むシステムを確率モデルでモデル化し、解析することで、システムの挙動を理解し、設計などの方針を提供する研究を行っている。国際誌の編集委員などを多数務めるほか、学内でもTsukuba Global Science Week (TGSW) や人工知能科学センター、広報活動等、学内運営に大いに貢献している。

略歴

日本学術振興会特別研究員、東京工業大学大学院情報理工学研究科助教、筑波大学システム情報系助教を経て、平成31年1月より現職。

Agostini Sylvain 助教

所属 生命環境系

専門分野 海洋生物学
生態学



— 業績 —

下田臨海実験センターの海洋酸性化プロジェクト研究施設「式根島ステーション」設立において、立案の段階から中心的な役割を担うなど、日本の海洋研究をリードしている。本ステーションを利用した国際共同研究や、日本でのフランスTARA財団による海洋環境調査など、国際的なプロジェクトを積極的に呼び込み、当センターの国際的なプレゼンス向上に寄与している。

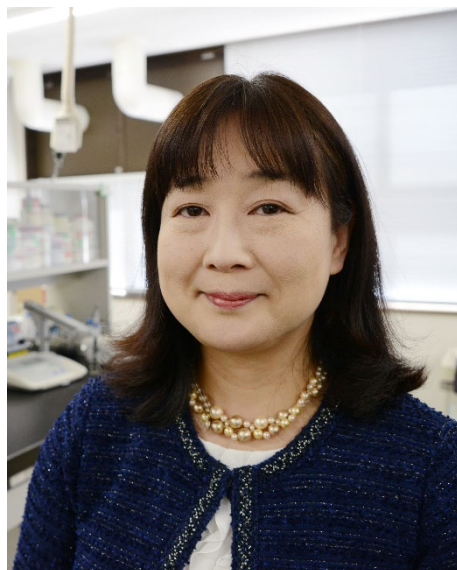
略歴

静岡大学理学部地球科学科研究員、琉球大学理学部海洋自然学科化学系研究員を経て、平成24年12月より現職。

磯田 博子 教授

所属 生命環境系

専門分野 食品科学
細胞生物学



— 業績 —

地中海・北アフリカ研究センター長及びライフイノベーション学位プログラムリーダーとして、JST-SATREPS、ライフイノベーション学位プログラム等における重責を担い、我が国の食薬資源研究をリードする立場として、研究・教育・学界活性化に尽力している。さらに、日本学術会議連携会員、文科省ユネスコ国内委員等の役職を務めるなど、学内外において大きな実績を挙げている。

略歴

雪印乳業株式会社、国立環境研究所循環型社会形成推進・廃棄物研究センター等を経て、平成19年11月より現職。ライフイノベーション学位プログラムリーダー及び地中海・北アフリカ研究センター長。

植田 宏昭 教授

所属 生命環境系

専門分野 気象・海洋物理・陸水学



— 業績 —

グローバル気候システムに内在する大気・海洋・陸面・生命圏相互作用について、各種の気候データ解析、および気候モデルを用いた実験的研究を通して研究を進め、卓越した成果を挙げている。外部資金を積極的に獲得するほか、気候形成に関する様々なシンポジウム、ワークショップ等々を積極的に企画・主催するなど、気候変動に関する最先端および世界トップクラスの研究成果をもとに、教育、社会貢献活動も推進している。

略歴

日本学術振興会特別研究員、気象研究所研究官、筑波大学大学院生命環境科学研究科講師、准教授等を経て、平成24年4月より現職。

井田 仁康 教授

所属 人間系

専門分野 教科教育学
人文地理学
科学教育



— 業績 —

社会科教育、特に地理教育の理論的・実践的研究を行っている。2017年度に1冊の単著をはじめ、編著や分担執筆を合わせて8冊の著書を発行しただけでなく、開発研究代表者として科学研究費を獲得するなど、優れた研究業績を挙げており、学術的にも高く評価されている。また、文部科学省の「学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業等協力者」として参画するなど、全国の学校教育に大きなインパクトを与える一人として、社会に直接的に貢献できる貴重な研究を行っている。

略歴

上越教育大学学校教育学部助教授、筑波大学人間総合科学研究科助教授等を経て、平成18年8月より現職。

宇野 彰 教授

所属 人間系

専門分野 リハビリテーション科学・
福祉工学
特別支援教育
神経生理学・神経科学一般



— 業績 —

学習障害児に対する指導法の開発に関する受託研究の代表者として第一線の研究を推進している。千葉県を中心として読み書き障害や学習障害関連の特別支援教育についての指導・助言活動を推進するとともに、NPO法人LD・Dyslexiaセンター理事長として、社会貢献活動に中心的役割を果たした。また、相談室室長、附属桐が丘特別支援学校長として、学内運営にも多大な貢献をしている。

略歴

国立精神・神経センター精神保健研究所知的障害部治療研究室長、筑波大学人間系准教授等を経て、平成24年9月より現職。平成29年4月～現在、筑波大学附属桐が丘特別支援学校長。

園山 繁樹 教授

所属 人間系

専門分野 特別支援教育



— 業績 —

発達障害の支援・教育に関する基礎研究に基づく社会実装を専門とする。平成29年度には、エクステンションプログラム「発達障害の特別支援教育PLUS+」（第Ⅰ期）を企画し約100名の受講者を得るなど、研究成果の社会還元に努め、中国語の「自閉症児者指導ガイドブック」の監修など、中国の自閉症教育充実に也大いに寄与している。所属学会において日本行動分析学会副理事長（前理事長）を務めるだけでなく、人間総合科学研究科長として学内運営にも多大なる貢献をした。

略歴

中国短期大学幼児教育科助教授、西南女学院大学保健福祉学部教授等を経て、平成16年11月より現職。平成28年4月～平成30年3月、人間総合科学研究科長。

河合 季信 准教授

所属 体育系

専門分野 スポーツ科学
コーチング学



— 業績 —

平成24～27年、(独)日本スポーツ振興センターに在籍派遣され、日本の競技力向上に関する戦略立案、実行、中央競技団体への強化サポート、コンサルテーションに関わるなど、スポーツ競技・普及・文化活動に関し、社会貢献で大きな実績を挙げた。現在は、日本スポーツ振興センター、日本オリンピック委員会、中央競技団体、外部研究機関、企業などと連携をとりながら、日本の国際競技力向上に関する支援や研究開発に尽力している。

略歴

北海道浅井学園大学短期大学部保健体育学科助教授、筑波大学人間総合科学研究科講師等を経て、平成21年12月より現職。

山本 浩之 准教授

所属 芸術系

専門分野 日本画



— 業績 —

人物を題材とした心象表現を主なテーマとして、日本画の制作研究を行っている。公益財団法人日本美術院が主催する「再興日本美術院展覧会（院展）」及び「春の院展」への入選を続け、平成28、29年には、再興院展に於いて一般入選者の中から選考される最高賞である「日本美術院賞（大観賞）」を、春の院展に於いて同じく最高賞の「日本美術院春季展賞」を2年連続で受賞している。平成29年に日本美術院作家区分の「招待」に推挙、平成30年に「同人」に推挙された。

略歴

茨城県立取手松陽高等学校美術科非常勤講師、東京芸術大学美術学部非常勤講師（助手）、筑波大学芸術系講師等を経て、平成25年4月より現職。

熊谷 嘉人 教授

所属 医学医療系

専門分野 環境医学・分子毒性学



— 業績 —

環境化学物質の生体に対する影響を研究し、毒性学の分野で国内の研究を先導している。活性イオウ分子中のサルフェン硫黄が生体内に侵入した環境中親電子物質と代償的に反応することでその親電子性を奪い、生体への影響を抑えている初期防御システムの存在を新たに発見した。科学研究費基盤研究（S）を2回連続で獲得するほか、一般社団法人・日本毒性学会の第15代理事長として学会の運営に尽力している。

略歴

カリフォルニア大学ロサンゼルス分校医学部研究員、国立環境研究所主任研究員等を経て、平成15年12月より現職。平成29年9月～現在、人間総合科学研究科国際連携食料健康科学専攻長。

千葉 滋 教授

所属 医学医療系

専門分野 血液内科学



— 業績 —

血液学分野、特に血液がんの分野で、血液疾患の患者検体や遺伝子改変マウス等を用いた病態解析及びその臨床応用研究を推進している。AMED研究事業に代表者として採択され、多施設臨床研究を医師主導治験として行う準備を進めているほか、造血幹細胞移植分野で既存薬剤の適応拡大を目指す医師主導研究を開始するなど、トランスレーショナル・リサーチを極めて活発に推進している。

略歴

筑波大学附属病院、虎の門病院、東京大学医学部准教授等を経て、平成20年3月より現職。平成26年4月～現在、人間総合科学研究科疾患制御医学専攻長。

松村 明 教授

所属 医学医療系

専門分野 脳神経外科学
放射線科学



— 業績 —

筑波大学附属病院長として、医療の高度化、経営改善、医療安全の国際水準化に尽力し、院内に未来医工融合研究センター、スポーツ医学・健康科学センター、予防医学研究センターを設置。臨床研究では「橋渡し研究拠点」の採択（全国10施設、唯一の新規採択）に尽力し、病院の発展に大きく貢献してきた。研究面では国際戦略総合特区にてBNCT用加速器、ImPACTでは医療用ロボットの先進的研究をリード。文科省、厚労省、ドイツ学術交流会における委員活動など、社会貢献でも大きな実績を挙げている。

略歴

平成16年3月より現職。筑波大学附属病院副病院長（総合臨床研修センター部長、国際連携推進室長、臨床研究推進支援センター部長）を経て、平成26年4月～平成30年3月、筑波大学理事、副学長、筑波大学附属病院長。

丸島 愛樹 講師

所属 医学医療系

専門分野 脳神経外科
救急・集中治療
脳卒中、神経救急



— 業績 —

救急・集中治療部、脳神経外科の診療に加え、脳卒中診療グループの中核メンバーとして診療に多大な貢献をしている。脳梗塞に対する抗酸化ナノメディシン（RNP）の研究がAMED実用化研究事業に採択されるなど、脳保護療法、再生幹細胞治療、ロボット（HAL）治療等の研究において、系や診療科の枠組みを超えた共同研究を展開し、優れた業績を挙げている。その知見を外国人対象の大学院授業（Stem Cell Therapy, Life Innovation Program）で講義するなど、教育においても情熱的に取り組んでいる。

略歴

筑波大学附属病院脳神経外科、東京都神経科学研究所研究生、産業技術総合研究所ナノテクノロジー研究部門研究生、ドイツ学術交流会(DAAD)奨学生、シャリテー医科大学ベルリン脳神経外科研究員等を経て、平成25年9月より現職。

上保 秀夫 准教授

所属 図書館情報メディア系

専門分野 図書館情報学
情報検索



— 業績 —

図書館情報メディア研究の中核分野の1つである情報検索を専門とし、近年は会話式情報検索、ライフログ検索、ニューラル情報検索に関する研究を精力的に行っている。マイクロソフトリサーチアジアから2016/17年度最優秀プロジェクト賞を受賞するなど、その研究は国際的に高く評価されている。また、ACM SIGIR東京支部の発足に携わり、初代支部長に就任するなど、国内外における研究コミュニティを牽引している。

略歴

グラスゴー大学計算機学科リサーチアソシエイト、筑波大学図書館情報メディア系助教等を経て、平成24年11月より現職。

重田 育照 教授

所属 計算科学研究センター

専門分野 物理化学
生物物理



— 業績 —

これまでの概念を覆す新しい計測・解析手法を確立し、液晶分子に紫外線光を当て分子が動く様子を直接観察することに世界で初めて成功した。新学術領域研究「高次複合光応答」計画班（研究代表）など、大型の外部資金を獲得すると共に、分子科学研究所客員教授、ポスト京重点課題7コデザインワーキンググループ副査、分子科学会幹事などを務め、社会貢献にも尽力している。

略歴

東京大学大学院工学系研究科助手、大阪大学大学院基礎工学研究科准教授、筑波大学数理物質系教授等を経て、平成28年4月より現職。平成30年4月～現在、理工学群物理学類長。

澁谷 彰 教授

所属 生存ダイナミクス
研究センター

専門分野 免疫学
血液内科学



— 業績 —

免疫を制御する受容体について研究を行い、様々な受容体を同定するとともに、それらの受容体の免疫制御における機能を個体レベルで解明している。「抑制性免疫受容体による自然免疫応答の制御機構の解明」（科研費基盤研究（S））等、当該分野において牽引的かつ顕著な業績を挙げている。これらの研究をもとに起業するなど、産学連携にも貢献している。また、ヒューマンバイオロジー学位プログラムリーダーとして、運営の陣頭指揮を執り、プログラムの評価「S」獲得に大きく貢献した。

略歴

三井記念病院、DNAX分子細胞生物学研究所、岡山大学講師、筑波大学医学医療系教授等を経て、平成28年4月より現職。平成25年4月～現在、ヒューマンバイオロジー学位プログラムリーダー。



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学BEST FACULTY MEMBER
表彰制度に基づき、2017年度の
教育研究活動において、極めて優れた
業績を上げたと認められ、表彰された
本学教員を紹介しています。

編集・発行／問合せ先
国立大学法人筑波大学
企画評価室
TEL 029-853-2047
Mail ki.hyoka@un.tsukuba.ac.jp